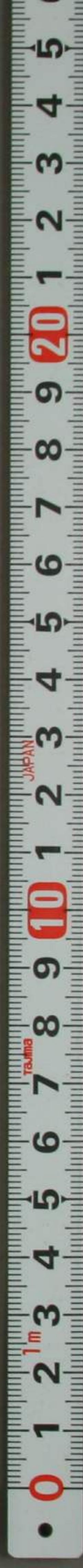


服飾管見別録



六

7邊子
1369
64



門邊
1369

服飾管見別錄卷第五目錄

衣服令私考



皇太子禮服

禮服冠

程海と云は臣の侍子度子の位より叙はるる位は
侍従と云ふは侍従の位に叙はるる位は

侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は
侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は

侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は
侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は

侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は
侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は

侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は
侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は

侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は
侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は

侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は
侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は

侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は
侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は

金銀装束帯

侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は
侍従の位に叙はるる位は侍従の位に叙はるる位は

白襪 錦 純 烏皮履

履 鞋 小 似 七 六 位 保 羅 衣

礼
考く、右の禮儀朝服朝袴之條

朝服朝袴の男服云々

知く、中、知く、官、

衛、衛、官、

衛、衛、

正
袴切、下、鳥、世、の、袴、を、

知、知、

年、之、月、朝、朝、

朝、朝、

凡、服、色、者、
白、丹、有、

延平近所式将曹の初めと葉切らるるもの皮を布染る

椽墨二行ニシテ 此之属宮色オ

下各兼得服カマテニセキルヤ 下各兼得服カマテニセキルヤ

後ト、若許由謂假命著命著 之入兼得服後考以下法絶之類、
此係カキ 凡書之立制也カキ 一、凡人度女ハ編カキ 一、凡書之立制也カキ

の修りあり 別行 外親王禮服

一品礼服實髻

多許小謂以金 玉カ 飾カ 髻カ 一、凡書之立制也カキ

二、凡書之立制也カキ 一、凡書之立制也カキ

三、凡書之立制也カキ 一、凡書之立制也カキ

四、凡書之立制也カキ 一、凡書之立制也カキ

五、凡書之立制也カキ 一、凡書之立制也カキ

深衣

深衣カキ 一、凡書之立制也カキ

一、位、礼、被、實、紫、深、紫、礼、被、青、深、紫、此、帶、深、紫、

初、被、青、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、

銀、飾、下、位、上、海、世、礼、被、青、深、紫、深、紫、

領、被、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、

飾、の、銀、飾、を、用、ひ、て、四、位、深、紫、衣、被、青、深、紫、

深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、

五、位、深、紫、衣、被、青、深、紫、深、紫、

表、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、

大、礼、大、出、身、九、日、別、服、之、

外、余、婦、夫、被、色、下、任、服、

一、位、礼、被、實、紫、深、紫、礼、被、青、深、紫、此、帶、深、紫、

初、被、青、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、

銀、飾、下、位、上、海、世、礼、被、青、深、紫、深、紫、

領、被、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、

飾、の、銀、飾、を、用、ひ、て、四、位、深、紫、衣、被、青、深、紫、

深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、

五、位、深、紫、衣、被、青、深、紫、深、紫、

表、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、深、紫、

大、礼、大、出、身、九、日、別、服、之、

外、余、婦、夫、被、色、下、任、服、

三王
御常の御用
肥乃御常御用
以下乃御常の御用
以下乃御常の御用

御常の御用
御常の御用
御常の御用

朝服

一、白、御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用

御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用

御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用

御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用

御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用

御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用
御常の御用

服飾管見別錄卷第六目錄

辨四篇

踐祚大嘗祭用禮服

帛御禮服

始服十二章

黃櫨漆禮服及鈿釵禮服

釵



意對彩鮮服之時

此部十二章

帛

大嘗祭用鮮服

辨四部

服時當長限雜



服飾管見別錄卷第六

權中納言從三位源朝臣宗武撰

踐祚乃大嘗祭之禮服を被用辨

此此世の装束おのり

此装束おのり古今抄撰お
三條の世装束お等と

令

踐祚の大嘗會也禮服をきふといふといふ更下

ふ例をたへ給ひしむる事なき事老より令

著
事
と
記
し
る
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事
を

の
事
は
た
し
た
れ
ば
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事

お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事

後
多
紀
元
明
皇
和
銅
元
の
事
を

十
月
五
日
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て

と
も
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て

た
る
ふ
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て

お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て

の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て

と
し
て
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事

お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て
お
銅
の
事
を
も
と
と
し
て

おはみなりし こと事ハ右 なるふや なるのり なるもき

ふじり なる なる なる なる なる なる なる なる

し なる なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる なる

又西宮の御所 なる なる なる なる なる なる なる なる

西宮の御所 なる なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる なる

大同三年十月廿五日 敕如^{キリシタ}南^南大宰府之難^使人^人等^等奉^奉朝^朝
憲^憲以^以爲^爲飾^飾令^令之^之不^不行^行往^往百^百所^所誠^誠宜^宜加^加禁^禁折^折不^不得^得許^許也^也
大^大祀

乃^乃大^大宰^宰府^府之^之國^國中^中有^有一^一寺^寺名^名曰^曰大^大正^正寺^寺其^其人^人等^等所^所居^居之^之處^處在^在大^大宰^宰府^府之^之南^南也^也

流^流傳^傳之^之事^事其^其由^由來^來未^未詳^詳也^也其^其後^後大^大宰^宰府^府之^之人^人等^等以^以爲^爲大^大正^正寺^寺之^之名^名不^不得^得改^改也^也

世^世上^上之^之人^人等^等亦^亦有^有改^改之^之者^者然^然其^其後^後大^大宰^宰府^府之^之人^人等^等以^以爲^爲大^大正^正寺^寺之^之名^名不^不得^得改^改也^也

其^其後^後大^大宰^宰府^府之^之人^人等^等以^以爲^爲大^大正^正寺^寺之^之名^名不^不得^得改^改也^也

其^其後^後大^大宰^宰府^府之^之人^人等^等以^以爲^爲大^大正^正寺^寺之^之名^名不^不得^得改^改也^也

其^其後^後大^大宰^宰府^府之^之人^人等^等以^以爲^爲大^大正^正寺^寺之^之名^名不^不得^得改^改也^也

其^其後^後大^大宰^宰府^府之^之人^人等^等以^以爲^爲大^大正^正寺^寺之^之名^名不^不得^得改^改也^也

其^其後^後大^大宰^宰府^府之^之人^人等^等以^以爲^爲大^大正^正寺^寺之^之名^名不^不得^得改^改也^也

其^其後^後大^大宰^宰府^府之^之人^人等^等以^以爲^爲大^大正^正寺^寺之^之名^名不^不得^得改^改也^也

射久美^レ以^レを^レ借^レ奉^レの^レお^レを^レあ^レ、^レ兼^レと^レ好^レ服^レと^レあ^レて^レ

か^レの^レ人^レ等^レも^レ志^レた^レが^レを^レて^レ、^レ兼^レと^レを^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

令^レ元^レ平^レ行^レ往^レ新^レ誠^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

格^レ令^レた^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

戲^レの^レ事^レを^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

本^レの^レ令^レ道^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

法^レを^レ用^レり^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

や^レと^レれ^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

此^レの^レ法^レを^レ用^レり^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

又^レ同^レ之^レ長^レの^レ中^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レあ^レり^レふ^レ一^レ、^レ且^レ復^レ祝^レと^レ

帛御禮儀此辨

今さらん帛衣衣をすまふにふしむの所をいふは

むね即二國のち本衣の月しつらるるに

たしと帛衣のすまふにふしむの所をいふは

のちもはるるにふしむの國の世をいふは本衣を衣

二章服乃二すまふにふしむの所をいふは

のちもはるるにふしむの國の世をいふは本衣を衣

のちもはるるにふしむの國の世をいふは本衣を衣

のちもはるるにふしむの國の世をいふは本衣を衣

のちもはるるにふしむの國の世をいふは本衣を衣

其の^衰竟^通十二章^通終^通を^通し^通

其の^衰終^通の^通終^通を^通し^通

其の^通終^通の^通終^通を^通し^通

其の^通終^通の^通終^通を^通し^通

其の^通終^通の^通終^通を^通し^通

其の^通終^通の^通終^通を^通し^通

其の^通終^通の^通終^通を^通し^通

其の^通終^通の^通終^通を^通し^通

其の^通終^通の^通終^通を^通し^通

其の^通終^通の^通終^通を^通し^通

其の^衰終^通

其の^衰終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

其の^通終^通

以禱衣為元正受朝之服、以鈿^釵禮服、言大小諸會服、皇太子從祀
及元正朝賀可服、衣是九章、朔旦入朝、元正受群官^若群官^臣賀
及大小諸會可服、黃丹衣並常所服者不^拘此例、^{皇太子從祀}
^{元正朝賀}、中祀已下、^{皇太子從祀}、^{皇后乃持衣、禱衣}
乃^是也、

かゝる衣、^{皇太子}、^冠、^上、^下、^服、^飾、

みよ敷^王、^臣、^乃、^禮、^服、^小、^河、^原、^孫、^乃、^是、^也、

子^乃、^是、^也、^衣、^是、^九、^章、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、

の^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、

は^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、

中^祀、^中、^儀、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、

は^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、

は^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、^衣、^是、^也、

身...
目見

...
全

...

或人の同...
召

...

...

...

...

...

...

皇后の御衣 冕飾の制を以て

冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾の制を以て

冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

皇后の御衣 冕飾を以て

名をとり^給むと^はし^の后の宴會^の後小^鈕鈕^鈕

衣^の水^の色^の名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

ら^の名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

手^の名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

結^の名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

色^の名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

皇后の春^の名^をし^て鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕鈕^鈕

服飾管見別錄卷第七目錄

令外服說辨一

從大寶元年 至延曆九年

九



大寶元年十一月戊申賜諸王御

等物... 諸王御... 賜諸王御

服飾管見別錄卷第七

權中納言從三位源朝臣宗武撰

令外服翫辨

大寶元年十二月戊申賜諸王卿

等帶樣

諸王卿八親王諸王公卿於已大夫以下

正

公以上は命すまは也、侍の様は位侍の本より、是より、
本より、是より、
は、
は、
は、

癸丑制、五位以上、婦、不得、
夫、服、色、

但朝會之日、聽、
位、色、已、下、

五位已上の婦、尋常は、
位、已、上、也、

人の婦は、
人、の、婦、は、
人、の、婦、は、

紅已下を、
紅、已、下、を、
紅、已、下、を、

の日は、
の、日、は、
の、日、は、

内命婦の、
内、命、婦、の、
内、命、婦、の、

大寶二年春正月己巳朔、
大、寶、二、年、春、正、月、己、巳、朔、
大、寶、二、年、春、正、月、己、巳、朔、
天皇御

皆髻髪ト

証 在前紀至
是重制也

吾朝のいさへを女はう形は髪をはる

ゆはあまのたかみきいさきよは髪はる

天部 下天皇の御宇はトめく男女髪をか

すくさ髪給をよる或は武はあは

信

その中り女年四十五上にかは武はあは

のまよと髪よははをよるへし府官人

老嫗は袴儀をけつるをよるよりてあは

ら似し布字の若人等も神事の場合も

きは髪はるはるは唯常をよるむ

慶雲三年春正月壬辰、定_二大射_一

祿法_ヲ、但_レ勲位者_{不_レ着_二朝服_一立_二}

其當位_ノ次_一

任下

是若勲一等ハ、藁芳_ヲ以_テ正三位の次_一

立_二、二等中_ハ、藁芳_ヲ以_テ從三位の次_一立_二

任下

勲三等ハ、紅_ヲ以_テ正四位下の次_一立_二

と_いふ_るなり

慶雲三年二月己亥、五世_ノ王_ノ朝

服依_テ格_ニ始_テ着_二淺紫_一

任下

く_るよ_ハ五世_ノ王_トい_へる_事、五世_ノ王_ノの_四五位_ニ

はるよのそつる末、今亦此禮さる有し、
格とつるもなる也

格とつるもなる也

慶雲三年十二月己未、有勅

令天下脱脛裳一着、白袴

是天下の庶人といふを、
是天下の庶人といふを、
奴はなほ縛口禪

脛裳をほくべし、
脛裳をほくべし、
衣服令朝廷に既に行

天下の庶人といふを、
天下の庶人といふを、
天はなほ縛口禪

天下の庶人といふを、
天下の庶人といふを、
也

和銅元年八月丙申、制、自今以

後、衣、襟、口、闊、八、寸、已、上、一、尺、已、下、

隨人、大小、為之、^又大、衣、領、得、接、作、

但、不、得、標、口、空、小、衣、領、細、狭、

^{三三下}此、^口、^小、^衣、^領、^細、^狭、

く、お、け、ふ、を、い、は、す、足、候、を、好、て、禮、を、お、ろ

る、ふ、や、ふ、之、故、^に、此、制、^の、

和、銅、五、年、三、月、癸、酉、^禁、^ス、六、位、已、下

以、^ニ、白、銅、及、銀、ノ、鎔、リ、革、帶、

賣、^正、^三、^下、衣、服、令、既、^ニ、六、位、已、下、烏、油、の、腰、帶、と

古、^法、^衣、^服、^令、^既、^ニ、^六、^位、^已、^下、^烏、^油、^の、^腰、^帶、と

禁、^ス、^六、^位、^已、^下、

和銅五年冬十月癸酉、禁_下六_一位

已下及_官人等服_一用_ル蕨_一芳_ノ色_ヲ并_ニ

賣_上買_下

^{位下}衣服令_ニ考_ル所_下、蕨_一芳_ハ三_位已_上の_色也、

故_ニ此_禁所_也、

和銅五年閏十二月辛丑制_ス諸

司_ノ人等衣服_ノ之作_、或_ハ襟_狭ノ_小或_ハ

裾_大長_又衽_ノ之_相過_ハ甚_ク淺_{シテ}行_ト趨_ノ

之_時易_シ開_キ如_レ此_ノ之_服大_ニ成_{ニス}無_レ礼_ヲ

且_レ令_ム所_司嚴_ニ加_ハ禁_止又_ハ无_レ位_ノ朝

服自今以後皆着襪黃衣、襪ノ廣サ一尺二寸以下云々

此制元年八月丙申の制と同意也

かは用らざる者らありてきり制せら

造り也、但裾大長と袍の裾を長くして

和銅五年閏十二月辛丑制諸

地に曳之、是又此とみは出つるにきりて共

司人等衣服之作或標狭小或

不割せらる、或は、今位ノ於服と下ハあら

裾大長又社之相過甚淺行、趨

ふに難さる、或は、今位ノ前と襖を著るるを

之時、易し開、如此ノ之服大ニ成ス無礼

如くし

宣下所司、嚴加禁止、又无位ノ朝

靈龜元年九月己卯、詔、皇親

よの事也、六位已下の禁物朝會の日廳聴ハ云

物を用うふり、クりて乃事、婦女丈夫志

蔭カシ子依て服用すふも亦聽すとい、又或は夫

貴きふりて其衣色色已下を順すカと礼す

也、凡横力といふふり、已下ハ五位已上六位

正下

已下をすべいいふ事、鞆の本乃上を糸くりてく

纏くりて後深添ぬべき、云云々也、

靈龜二年冬十月壬戌、以テ從ニ四

位一下長田、王ヲ為ニ近江守、童テ禁ニ内

外諸司薄キ紗、朝服六一位以下、羅

上京の儀右なまきやいしんくはなべて右社礼

ししきも文部天の御り左社右なまき

めらまきしは今のえいよふをくらしきまひら

ましきも文部天の御り左社右なまき

養光三年五月辛亥制定諸國

貢調ラ短縮狭絶絶鹿狭縮*義濃狭

絶絶之法各長六丈濶一尺九寸

短縮狭絶絶等長六丈幅一尺九寸短

短縮狭絶絶等長六丈幅一尺九寸短

養光三年六月辛未初令諸國

史一主一政一主一帳一太一女一毅一把一笏一焉

丙子令一神一祇一官一宮一主一左一右一太一舍

人一寮一別一勅一長一上一畫一工一司一畫一師一雅

樂一寮一諸一師一造一宮一備一主一計一寮一主一統

寮一算一師一典一藥一寮一乳一長一上一左一右一衛

士一府一醫一師一左一右一馬一寮一馬一医一等一始

把一笏一焉

養老三年十二月成子始制一定

婦一女一衣服一様

衣服令既一婦女の衣服其制一

の^レ位^ニを^レ制定^ス所^ニは^レその^レ様^ニを^レ依^ル

た^リて^レ天^ノ下^ニ一^ニを^レ極^ニへ^ル事^ニ由^ル也

養老四年夏四月庚戌制^ス三^ノ位

己上ノ妻子及^ビ四^ノ位五^ノ位ノ妻ハ並^ニ聽^セ

服^ニ蕨^ラ芳^ラ也

養老四年五月辛酉制^ス皇^ノ親ノ服

制^ハ者^ニ以^テ王^ノ孫^ヲ准^シ五^ノ位^ニ踈^ク親^ヲ准^シ六^ノ

位^ニ

位^ニ

踈^ク親^ヲ三^ノ世四^ノ世乃^チ諸^ノ王^ト同^シ也此^ノ制^ヲ

ハ^レ皇^ノ位^ノ孫^ニハ^レ淺^ク紫^ニ三^ノ四^ノ世^ノハ^レ皇^ノ位^ノ王^ノハ^レ蕨

芳名を以て事合ふ私考を解ぬ、此語より

孫王乃吾位の福ハ凌俳と若三世四世乃諸

王の位の福ハ深録を以て事合ふ事なり

養老七年八月甲午太政官處

分朝廷儀式衣冠形制彈正式

部総知糾彈若其存意督察自

然合禮項者文武官人雜任以

上、衣冠ノ建制進退緩惰或彩綾

着裏輕羅致表或冠纓長垂過

越接領或領曲細綾露其肩節

或ハ袴^ハ口^ハ所^レ括^ル也^出其^ニ脛^ヲ踝^ラ如^レ此^ノ之

徒^ニ其^ノ類^ハ稍^ニ多^ク臺^者二^司明^ニ加^ハ告^ス

示^ス...

雜任ハ判任式部判補と云ふべし彩綾

を裏^ニ作^シて^ハ輕^ク履^キを^表と^シて^ハ薄^ク朝^服を^穿て

下衣を透^テ正^をい^る冠^後頭^巾の燕^尾也

過^越領^ト接^ス長^襪ハ風^ヲ吹^込て^ハ上

...

此^等文^官の襪^も活^世の^一た^ぐら^い也

矢^平襪^と知^分曲^細綾^ハ羅^をい^る也

曰、令_下諸国_ヲ停_ニ四犬_ノ廣_ニ絶_純皆成_{中サ六}

大_犬狹_{絶_純}又_{班_分}班_分口_分令_分田_分依_{レテ}令_分収_分授_分

於_{レテ}事_分不_レ便_分請_フ悉_ク収_メ更_ニ班_分並_ニ許_ス之_分

天平元年八月癸亥、其賜_レ物_分云々、
別行

又五_一世_ノ王_ノ嫡_一子_ノ已_一上_ニ娶_テ孫_一王_ヲ生_レ

男女_者ハ_ハ皇_一親_ノ之_限

天平二年夏四月庚午、
詔_メ曰

云々、自_一今_一以_一後_一天下_ノ婦_一女_一改_テ曰_キ衣

服_一施_施用_一新_一様_一

臣下ケ
新_一様_一令_分也_分養元三年_ノ其_ノ様_ヲ制_一

て示さるるに^至、
師下事、
使部舎人、
御下事

了り

天平三年十一月丁未、太政官

處令^ス武官、醫師、使部、及左^ノ右^ノ馬

監^馬、馬^馬、医、帶^コ、伏^レ者、考^レ選^レ、及武官、解

任者、先例、並^ニ属^ス式部、於^テ事、不便^{アラ}

自^レ今以後、令^ニ兵部^ノ掌^ラ

^二官^一、
是^レもて衣服令武官、志^ニ已上の中^ニ、医

師下事、
使部舎人、
御下事

了り

天平四年春正月乙巳朔御幸太

極殿受朝天皇始服冕服左京

職献白雀

儀モテ
くハ〜ハハ條の論ヲ

天平八年五月辛卯諸国調布

長二丈八尺闊一尺九寸庸布

長一丈四尺闊一尺九寸為端

貢之常陸曝布上總望絶細賞

安房細布及出絶絶郷庸布依テ回

貢之ス平平六月月氣氣内内上

天平十年九月庚子内礼司主

礼太一人始令把笏

天平十二年春正月戊子朔

天皇御大極殿受朝賀激海郡

使新羅學語等同亦在列但奉

翳美人更袍袴

此袍袴いふふふのふふふ

癸卯天皇御南苑宴侍臣饗

百官及渤海客於朝堂五位已

上賜摺衣

天平十二年九月^日戊子、召^テ集人

二十四人^ヲ於^テ御在所、右大臣橋

宿^リ祢^レ諸^ノ兄^ト宣^テ勅^ヲ授^レ位^ヲ各^々有^リ差^ニ花^ニ

賜^ラ當^ニ色^ヲ服^ヲ發遣^ス^{ロシム}

^{信下}に當色の服といふは位禰也

天平十三年秋七月辛酉宴^ス群

臣^ヲ于^テ新宮^ニ是^ノ日^ニ授^テ左^ノ大^ノ弁^ト徒

四位^ノ上^ノ巨^ノ勢^ト朝^ノ臣^ト奈^ノ氏^ト磨^ニ正^ノ四

位^ノ上^ノ花^ニ賜^ラ以^テ金^ヲ饒^ニ班^ニ竹^ノ御^ノ杖^上

^{信下}此御杖をよめて此余乃調成唐物のこゝ

天平十三年冬十月辛卯勅

天平十三年冬十月辛卯勅

位已上礼服冠者元来官依賜

之自今以後令私作備内余婦

亦同

内余婦亦同私寶

かんしん

天平十四年春正月丙辰賜武

官酒食仍賚五位已上被主典

已上反子袍帛袴府生已下衛

奈而後非葛蒲ノ縵者勿入宮中

^{臣等}得々頭中の中子ヲ申云々左右へ出

天保二十年八月癸卯改定

天平二十年八月癸卯改定

奠服器及儀式

天平勝寶元年十一月丁亥大

神祢宣左太朝臣社女其輿紫色并

東大寺

天平勝寶四年夏四月乙酉盧

舍那大佛ノ像成始開眼是日行

幸ス東一^大寺、天皇親^ラ率^ニ文武百
官^ヲ設^レ齋^ヲ大會^ニ其儀一^ニ同^シ元日、五
位已^一上者着^ニ礼服^ヲ六^一位已^一下者
當色^ニ、

六位已下當色とは文官の六位已下朝服

武官の六位已下會集此日の服也

天平寶字二年三月丁亥船名
播磨速^一鳥^ヲ並^ニ叙^ス從^一五位^一下其冠
者各以^テ錦^ヲ造^ル入^レ唐^一使^ヲ所^レ乘^ル者也

此事令已^テ服^ヲ脱^クの辨^ヲ解^ルぬ

天平寶字六年春正月丁未造

東海南海西海等道節度使料

綿襖曹各二万二千五百十具於

大宰府其製一如唐國新樣仍

象五行之色皆畫甲板之形碧

地者以朱赤地者以黃黃地者

以朱白地者以黑黑地者以白

每四十五十具成一丁行之色

綿の襖とハ續續して作作るる所所の襖乃綿

足足きき所所也也胸胸背背及及裙裙ととりり朱朱黄黄白白黑黑ととりり

甲板の形をなすもふ也。左右の神ハなす

るくは、改化朱化等ハ襖乃色也。曹ま

是りかまふ

乙卯造綿ノ甲曹一千領以貯鎮

國ノ衛府

信

十のき大宰府にて作まふなり成べし綿

綿

の甲ハ綿此襖也

天平寶字六年八月丙寅御史

大寺文室真人淨三以年光カ

衰^{名ラ}優^{アツテ}詔^ニ特^ニ聽^ニ宮^中持^レ扇^ヲ策^杖

扇（扇）とていふ杖と筆（筆）類（類）なり後の世扇

大い夫を多りいふは徳也

天平寶字七年八月壬午初遣

高麗國（高麗）船名曰能登（能登）歸朝之日

風波暴急漂蕩海中祈曰幸賴

船靈平安到國必請朝廷酬（酬）以

錦冠（錦冠）至是緣於宿禰授從五位

下其冠制綿表（綿表）純（純）裏（裏）以紫組（紫組）為

纓（纓）自今御衣類皆平織（平織）亦著（著）子（子）上（上）良

此冠（冠）く（く）い（い）は（は）今已（今已）衣服（衣服）の年（の年）なり

又其朝服繡色を用うと云々

乃六位りふ事

神護景雲二年十一月癸未

是日被任官者多不_レ會_レ庭省_レ堂

代之_レ之_レ稱_レ唯_レ於_レ是_レ詔_レ式_レ部_レ兵_レ部_レ者

掌_レ始_レ賜_レ把_レ笏

神護景雲三年春正月辛未

是日勲八_レ等已_レ上_レ身有_レ七_レ位而

帶_レ職_レ事_レ者始_レ著_レ當_レ階_レ之_レ色_レ列_レ於

六位之上_レ六位諸王着_レ繡_レ者_レ次

之、出、於、此、上、下、六、部、皆、王、所、統、轄、也、

寶龜九年三月辛卯葛井船津

文武生藏、六氏ノ男、女、二百、三、十

人、供、奉、歌、垣、其、服、並、着、青、摺、細

布、衣、一、重、紅、長、紐

寶龜元年九月壬戌、奉、令、昔、云、又

光先、著、袍、衣、以、一、匹、為、限、天、下、服、用、

不、聞、狹、窄、比、束、任、意、競、好、寬、大、

至、于、裁、袍、更、加、半、匹、袍、襖、亦、存、

不、弁、表、裏、習、而、成、俗、為、費、良、深、

自今以後不得更然（三）

袍襖（三）亦云（三）表裏（三）并（三）或（三）

表裏（三）或（三）

天（三）

寶龜二年五月戊辰停（三）年（三）入（三）帶（三）

劔（三）

是私（三）の（三）節（三）劔（三）

劔（三）

寶龜五年正月辛亥勅（三）先（三）會（三）大（三）

臣（三）身（三）帶（三）二（三）位（三）者（三）着（三）中（三）紫（三）自（三）今（三）以（三）

後宣_レ為_レ例行_レ之_レ義_レ又_レ中_レ祭_レ自_レ今_レ年

寶龜五年六月庚午始命_レ命_レ大_レ政

官左_レ右_レ官_レ掌_レ把_レ笏_レ也_レ或_レ表_レ表_レ也_レ

寶龜七年春正月庚寅朔宴_レ五

位已_レ上_レ於_レ前_レ殿_レ是_レ日始_レ列_レ諸

主_レ裝_レ馬_レ無_レ蓋_レ者_レ於_レ諸_レ臣_レ有_レ蓋_レ之

下_レ蓋_レ祭_レ林_レ樞_レ其_レ祭_レ者_レ亦_レ蓋_レ

寶龜八年六月辛巳朔_レ執_レ遣_レ唐

副_レ使_レ從_レ五_レ位_レ上_レ少_レ野_レ朝_レ臣_レ石_レ根

從_レ五_レ位_レ下_レ大_レ神_レ朝_レ臣_レ末_レ足_レ等_レ大

使今毛人身病弥重不堪進途

涸知此狀到唐下牒之日如借

問無大使者量事今疏其石根

者着紫猶称副使其持節行事

一如前勅

寶龜十一年秋七月甲申征東

使請禩四十領仰東海東山諸

國使造送之全草

此禩四十領甲乙丙丁禩也

寶龜十一年八月庚戌勅今聞

諸一國ノ甲稍^弱經^六年序^ヲ悉^ク皆多^ク不^レ中^ニ

用^ハ三^十年^ニ一^度立^テ例^ヲ修^リ理^シ隨^テ修^ス隨^テ

破^ス極^テ費^{コト}功^一役^ヲ今^ニ草^ノ之^ヲ為^ス甲^一穿^一固^ニ

經^レ久^ク畏^テ躬^ヲ輕^一便^ニ中^テ箭^ニ難^シ貫^キ計^ル其

功^一程^ヲ殊^ニ亦^レ易^シ成^リ自^レ今^ニ以^テ後^ニ諸^一國^ニ

所^レ造^ル年^ニ料^ノ甲^一曹^ハ皆^ハ真^ク用^ヒ革^ヲ即^チ依^テ

前^レ例^ニ每^年進^ム様^ニ但^シ前^ニ造^ル鐵^一甲^モ不^レ

可^レ徒^ニ爛^ス每^ニ經^ル三^十年^ヲ依^テ旧^キ修^ム之^ヲ

^大下^テ此^ノ草^ノ甲^ハ子^ヲ大^ニ綿^ノ甲^也唯^ニ草^ヲ

其^レ替^ヒて^ハ綿^ノ糸^ノを^モ由^ル也^ト同^ク也^ト

延曆六年五月己丑有勅令皇

太子帶劔ノ下時太子未レ加元服ヲ

矣ノ

延曆九年夏四月辛丑仰柳ノ大宰

府令造鐵曹二千九百餘ノ枚ヲ

服飾管見別錄卷第八目錄

令外服翫辨ニ言從三位海朝

從延曆十一年至天長八年



延曆十一年秋七月戊午禁

宋錄攝但ノ舊ノ卷ノ中ノ所ノ記ノ也ノ

延曆十一年...

延曆十三年十二月庚申太政

官符^應禁^斷犢皮^{鞞鞞}事^右被^右

大臣宣^旨奉^ル敕^ラ牛^ノ之^為用^在國

切^要負^レ重^キ致^レ遠^ク其^功實^ニ多^シ今^聞

無^賴之^流爭^テ事^ヲ驕^シ後^殺剝^班犢^シ

競^テ用^ニ鞞^鞞及^ヒ胡^錄等^之具^ニ為^ス弊^ラ

甚^ニ事^須禁^絶若^シ有^ラ違^犯科^違

敕^罪主^司阿^容亦^與同^罪

延曆十四年十二月丙子聽^參

議^已上^著白^玉帶^民矣^於念^助

延曆十五年春正月癸卯令伊

豫親王帶_ヒ劔_ヲ

延曆十八年春正月辛酉御_ニ大

極殿_ニ宴_メ羣臣_ヲ誥_ニ渤海客_ヲ奏_シ樂_ヲ賜_シ

蕃客_{以上}慕_{ハキ}摺_{スリ}衣_ヲ

延曆十九年夏四月庚寅敕象

牙_{陰陽}之外_ハ親王以下不得_ニ服_ス

用_{スル}大_ニ...

延曆二十年二月丙申始_ニ令_ス住

吉_社神主_ヲ把_ニ笏_ヲ

延曆二十四年十二月丁酉施

賜僧茲宿侍五位已上大袍

大袍とは袷此袍の入り入り

延喜式より大衣と云々

此の式より其式より襦

此大袍も入り入り

大同元年冬十月丙寅太政官

符^應政七位初位當色事右被

右大臣宣^レ偈^ッ奉^ル教^ラ今聞^ク漢家^ノ之

制略異^ク於^テ間^ノ緑縹^ノ之^レ淺^ク不^レ著^ク堂

同色主師帥著緝布先是大尉著

緝女尉主師帥著淺緑每取據是

以改

大同三年九月辛巳敕伊勢大

神竈度會二宮大内人各三員

元是白下自今以後真預外考

竈把笏笏

大同四年五月癸酉聽五位以

上通用白木笏其白玉玳瑁等

腰帶者亦依延慶十五年正月

十八年正月西度ノ格自餘禁制スル

如常例スル

弘化元年九月壬戌是日ノ制ス大

臣身帶二位者ハ聽レ著ル中紫ラ今宣

改ラ著ル深紫ラ又諸王二位已下五

位已上及諸臣二位三位者依ル

令條淺紫ラ今改テ著ケ中紫ラ又去ス大

同二年制四位已上不得ニ服用ス

者令聽五位已上服用セ

弘化四年三月丙寅太政官符

應令_レ勅_レ生_レ帶_レ劔_レ事_レ右得_レ左右馬
寮解_レ備_レ夫_レ馬_レ者軍國之用非常
之備掌字之司不可_レ無_レ備_レ望_レ請_レ
令_レ史_レ生_レ帶_レ劔_レ備_レ于非常_レ者_レ右大
臣_レ宣_レ奉_レ敕_レ依_レ請_レ

弘仁五年夏四月丙申武官_ノ五
位以上聽_ス朝服位襖通_{著_{スル}ヲ}

考_ル子小儀已上猶襖_を是_レ以_テ也

胡服と繼服の位袍_を

い_ハ爲_レ依_レ於_レ也

親王内親王女御及三位以上

嫡妻子、^ス竝^ニ聽^ス、^ス蕪^ニ芳色、象牙ノ刀、子^ヲ

但^シ、^シ緋色、鞞、勒、一切^ニ禁^ス、又^ニ禁^ス、女

人^ノ著^ル、^ル褐及^ヒ黄、^ニ檀、^ニ深等ノ色、^ヲ唯節會

日^ハ不^レ在^ニ禁限、^ニ五位已上、^ス聽^ス、恒服

飾^ヲ、^ニ六位已下、^ハ不^レ得^ル、^下以^テ金銀^ヲ為^ル

飾^ト、^ト内親王、^ト孫王及^ヒ女御、^ハ已上、^ハ四

位已上、^ハ内命婦、^ハ四位、^ハ泰議、^ハ已上、

嫡妻子、^ハ大臣、^ハ孫、^ハ竝^ニ聽^ス、^ル乘^ル、^ニ金銀ノ装

車^ニ自餘、^ハ一切^ニ禁^ス、^ス断^ス

象牙カ子とハ象牙もて柄鞆たのたりカ

子ぬるた、裾たハ藍たたて思たくぬるたまてた

ろたつたふた位已上聽た恒服飾カた六位已下

不得た以た金銀た為た飾たとたふたたたてたるた尺た重たハた五

位已上た此カ子金銀たもて飾たふたゆたきた

金た也カ子たハたいたふたの紐た也た

弘仁九年三月丙午詔曰た云た其

朝會之禮及た常た所た服た者た又た早た逢た

貴た而た跪た等た不た論た男た女た政た改た依た唐た法た

但た五た位已上た礼た服た諸た朝た服た之た色た

衛仗之服皆緣ラ旧例ニ不可カ改張ス

戊申制ス朝堂ニ公朝見ル親王及ヒ太

政大臣者左大臣勤坐セ自餘共ニ

立テ牀子前ニ但シ六位已下ニ磬折メ而

立テ又諸衛府生以上ハ除ク衛仗之

外皆著靴ハ唯著布帶ラ時須ク麻鞋ヲ

又除ク着ル靴ヲ之外ハ通ク着ル麻鞋ヲ

辛亥太政官符皇太后宮職應ニ置ス

職掌一人ヲ竝ニ令ム把ル笏ヲ

弘仁十一年二月申戌朔詔曰

云其服大小諸神事及季冬奉

幣諸陵則用帛衣正受朝則用

冕冕十二章羽日受朝日聽政

受蕃國使奉幣及大小諸會則

用黃檀深衣皇后以帛衣為助

祭之服以禱衣為元正受內朝之

服以鈿叙叙禮服為大小諸會之

服皇太子後袍及元正朝賀可

服冕九章羽望入朝元正受

群官若官臣賀及大小諸會可

淳和天皇嵯峨北帝北山御建御所

させむ以て西良親王子皇太子と

玉ふす也ハ女皇子始に皇太子乃勝子はけ

玉以てさるる御所なり

弘仁十四年十二月甲申詔曰ク

云々項者陰陽錯謬早疫更侵云々

其時世澆穢邦國顛瘁礼服難

辨多ク歲々朝賀山川年々之間欲停著

用互宣議定奏以之非奏

壬辰公卿覆奏曰云々愚意攸所及

尋^テ須^ル上^ニ聞^ス其^レ礼^ニ服^者依^テ詔^ニ停^止也
但^シ皇^子太子及^ヒ参^議非^ス参^議三^位
以^上并^ニ預^ル職^掌人^等依^テ旧^キ著^焉

天^行長^{四年}冬十月戊申御紫宸

殿賜^レ飲^ヲ群^臣醉^舞有^テ詔^賜共^業

之^レ誓^フ人^人拵^ス頭^ニ

共^業此^ノ簪^字紛^ふと^ハ拵^頭の^死の^事

也[、]謹^テ考^テな^らば^共業^此ニ^字
か^らず^ハ竹^葉乃^誤ら^ぬべ^シ

天長八年八月丙子禁^ニ新^テ紫^色

減^減紫^已上^ラ止^ム潜^盤也

考るに 僭造之と云ふは云々もてんを

長此に位以下の減茶已上の茶を

事と云ふらん

先喜彈正式

印

無印書是別紙表裏より取

新

長次郎任ハ下ノ

...

服飾管見別錄卷第九目錄

延喜彈正式考

服飾

服飾管見別錄卷第九

權中納言從三位源朝臣宗武撰

延喜彈正式服飾考

凡五位以上通用牙笏白木笏前誦後直

六位以下官人用木前推後方

凡無品親王諸王内親王女王等衣服也

親王著紫孫王准五位以下諸王准六位

其服色 別行一室下ケ 者用鑑 以下の二字今のおろ孫王以下は誤

〜 品親王を以て 准内親王

女王等とは 准五位の法王

信

の内親王五位の女王等の服色は

〜 准五位の内親王八位と

〜 准五位の内親王八位と

〜 准五位の内親王八位と

〜 准五位の内親王八位と

のし

乞婦人得^着着^二夫衣服色^一但^二節會之日^一不在^二

此例

信々

節會之日^會此例^一河^二下^一の條^二是^一

節會^傳の^二日^一、内^二令^一婦女^王五位以上の嫡妻女子、

信々

衣と^錦と^二並^一に^二着^一

有^二此^一

凡大臣帯^二二位者^一朝服^着深紫^一諸王^二二位

已下五位以上^諸諸臣^一、二位三位並^着中紫^一

信々

是^二下^一より^二上^一、^二五位以上^一の朝服^二可^一

允^紵布衣者雖深退紅自非輕細不在制

限

允摺^深成文衣襜者並不得著用但緣公

事所著^着并婦女衣裾不在禁限

允淺桃深襜朝坐公會^志聽服用

允錦衣者內命婦及女王并五位以上嫡

妻女子並節會之日聽通服^鋪者不在聽

限

允深淺純紫裙者聽^非庶女以上通^著

允蘊芳色者親王以下參議以上及七非

冬議、三位ノ嫡妻女子并、臣王聽ニ着用

三位以上にゆりしるも四位の冬、侯ハ可らる

ことありんた水を冬、侯以上とソふときハ

非冬、侯の三位その中にあることありんたを冬

侯以上及非冬、侯の三位とありんたを此時

職

の位よりもおもくなりしるより、つやまりてけるを

書む

凡、衛府舍人、刀、緒、左近衛、緋絶、右近衛、緋纒、

左兵衛、深緑、右兵衛、深緑纒、左門部、浅纒、右

門部、浅纒、纒、

こゝに刀の緒とを横刀の緒と、門部をいふをもて、
近衛兵衛となくびに舎人なるを七字べし。

凡囚獄司、物部、横刀、緒、色、胡桃、漆、帯、刀、次、身人、

黄、

凡諸禁色者、総テ雖下衣、不聽服用、

次支子深紫、漆紅等をりへり、白き色をわをもん、

下衣とを鳩袴等をいへし、

凡支子漆色、可濫^黄青丹者、不得服用、

深支子漆とを丹に似る故に、淺きとわもんに

あゝん、

凡滅紫色者冬諫以上乾通用一

五位以上乾_レ着_二半臂_一

凡赤白橡_レ袍_レ乾_レ冬諫已上着_レ用_一

〜に冬_レ裁_レ已上着_レ用_一をゆると_レ朝廷_ニ奉_レ事_一ナキ

る_レをゆると_レなり

凡公私奴婢服_レ黄_レ葡萄_レ決_レ紅_レ赤_レ練_レ橡_レ白_レ橡_レ黑

染_レ其_レ裙_レ青_レ赤_レ絶_レ布_レ等_レ色_レ聽_レ之_レ紫_レ緋_レ緑_レ紺_レ縹

等_レ不_レ須_二全_一色_レ唯_レ得_二緹_一純_二裁_一緋_一

此_レ条_レを考_レる_ニに_一婦_レ女_レの_レ衣_レ裙_レの_レ制_一之_レ奴_レの_レ字_レを_レと_レも

〜と大_レ誤_レり_一あり

金銀の薄泥ハ久シキニシテ此より特殊にいま
しりあり

凡紙素、金銀及白錫、乾為五位以上服用之儀

紙素ハ金銀ともいものさまじくぬ金銀ともい

七非紙素金銀ともいしを非の字の落しるり

まゝ紙素の二字々書度りつゝまじり紙素のま

たもつえれむ減金銀をゆるむ事ともい

凡纏色以藍搦者衛府、舍人等、儀服他人不

得輒用

凡書、錢、太刀、五位以上、取之

考るに是鞘ニまき互ニしるを云く

凡刻ニ鑲ニ太刀ニ非ニ新作ニ靴ニ五位以上着用一

螺鈿ノとさヤ文を入り入る又金具ノ高く

文を彫らるをとしてを吟り

凡刀子ノ長五寸以上不得靴帶ノ但衛府者靴定

刀子と紐刀のをらり

凡内婦命三位以上靴用象牙櫛

此象牙のくもきグなるべし

凡五位以上靴用虎皮但豹皮者冬誤以上及

非参議三位靴之自余不在靴限一

凡白玉腰帶、三位以上及四位、冬設、着用、試

瑁、馬腦、班犀、象牙、沙魚皮、此紫檀、五位以上、通

用スルヲ

凡紀伊石帶、隱文、王者及定摺石、世帯、冬設、已

上刻鏤金銀帶、及唐帶、五位以上、並聽、着用、一

紀伊石帶、白摺者、五位以下、不得用之

及定摺石帶と、い、考得、金銀を刻

鏤り、世帯、と、金、銀、の、鏤、に、文、を、高、く、及

かきし、世帯、之、今、も、金、銀、は、衣、の、腰、帯、と、あ、る、唐

帯と、も、ら、一、の、つ、く、ら、鏤、つ、け、る、帯、之、紀

伊石世帯と云、紀伊國の海よりきくめい石とてあるも
のほや異國よりあるよりきろくろくをけむと
すえ終り一人もおとす

凡鳥屏世帯、職六位以下着用、但有通天文者、
不在禮限

凡奥袋者冬誂以上、及着紫、諸王、五位以上、金装、自
余、四位、五位、銀装

凡以獨窠錦、為鞍褥者、材禁之
獨窠の錦と云、地に文なき、窠のこを織するをい
ふなり、是を禁むるをいふ、御鞍褥、不

と是を用ゐらざるや。

凡六位以下、鞅、鞞、總、不得、連着、但、聽着、鞞、鞞、及

後、末、紫、鞅、褥、紫、龍、頭、鞅、把、緋、鞞、等、皆、禁、斷、之、

纏、鞞、者、不在、制限、

この條六位と下の鞅の具をいへり、鞞と云ふは

むらぐいをこめこり、ちぶらとを鼻革

の事なり

凡、冬、議、已、上、檢、非、遣、使、別、當、已、下、府、生、已、上、禮、

着、緋、鞞、

前、別、の、条、に、よ、り、む、五、位、以、上、は、緋、の、鞞、を、着、せ、ら、る、

此条に引くは冬後及推非遣使の家口位
位之靴の鞆を聽する之と其々の靴をあらぬ
て七多ふれしものをあらぬし

凡船装者冬後以上靴用之

凡船皮障泥靴五位以上着之

凡内親王孫王女御及内命婦并冬後以上非冬後

三位嫡妻女子大臣孫並靴兼用金銀装車

屋形

車の屋形とあるは車に引くは車の屋形のくに

金銀を飾るを靴なり

凡内親王三位以上内命婦及更衣以上^五之^二靴^一

絲^一青^一有^一庇^一之^一車^一并^一着^一中^一緋^一牛^一鞆^一

凡市人不得以^下白綾夾^一纈^一等^一為^一車^一屋^一形^一裏^一以^一

雜^一楷^一色^一為^一從^一者^一衣^一以^一綠^一色^一編^一竹^一成^一文^一為^一簾^一

乃將^一從^一四^一人^一以上^一

凡^下標^一新^一川^一大^一小^一麥^一青^一月^一苗^一為^一馬^一草^一賣^一四^一只^一并^一桑

棗^一木^一鞍^一橋^一

凡^一鈿^一纒^一并^一宝^一髻^一及^一緋^一裙^一剪^一綠^一作^一劍^一等^一莫

料^一

此^一条^一之^一標^一並^一必^一に^一似^一て^一標^一せ^一ら^一る^一物^一を^一奉^一り^一と

凡由^レ鉞^レ縹^レを^レ表^レ服^レに^レ似^レし^レと^レ禁^レざ^レん^レ緋^レの^レ裙^レを

造^レり^レ色^レを^レま^レじ^レと^レ禁^レざ^レん^レ前^レ方^レ線^レ作^レる^レ紐^レと^レさ^レら^レむ

巾^レを^レ文^レの^レ字^レに^レ彫^レて^レま^レを^レも^レの^レう^レへ^レま^レか^レけ^レら^レる

成^レづ^レし^レそ^レも^レ刻^レ鏤^レ下^レ似^レし^レと^レ禁^レざ^レる^レを^レう^レた^レ

宝^レ篋^レと^レ此^レ類^レと^レあ^レら^レぬ^レ字^レの^レ誤^レり^レを^レし^レん^レい^レか^レさま^レあ^レら^レぬ

こ^レも^レま^レつ^レき^レ形^レし^レま^レる^レ今^レの^レあ^レみ^レ緋^レの^レ裙^レを

緋^レに^レ作^レり^レ接^レを^レし

凡^レ婦^レ人^レ裕^レ裳^レ不^レ論^レ貴^レ賤^レ一^レ裳^レ之^レ外^レ不^レ得^レ二^レ里^レ着^レ

單^レ裳^レ不^レ在^レ制^レ限^レ

凡^レ裁^レ絹^レ地^レ絶^レ為^レ獵^レ衣^レ袴^レ緋^レ白^レ絹^レ縹^レ着^レ從^レ女^レ衣

裳^ニ以^レ絲^ヲ菅^ヲ車^ヲ及^テ用^ル金^銀等^ヲ悉^ク皆^テ禁^ス斷^ス 但^{シテ}金^銀

釘^ニ非^ズ制^限

獵^ニ衣^袴と^モ加^テ利^ニ衣^袴と^モむ^シ獵^ノ字^ト借^ス字

之^ヲ今^ノ本^ニ金^銀釘^ヲ金^泥の^釘と^書くと

送^リを^し

元^ノ五^月五^日五^位以^上諸^王諸^臣獻^テ走^馬時^兵部

省^分頭^陳列^テ朱^雀東^西訖^テ省^申臺^云列^馬訖^即

忠^以下^分立^テ左^右巡^檢禁^物其^走馬^裝束^聽用^純

素^金銀^乘人^裝束^不聽^禁色^若有^違犯^兵部

不^勤者^喚省^及主^彈之

凡五月五日供節諸衛府官人以下除甲冑餉之外不

聽用金銀縱有違犯一只彈禁色不得扣留五位以上走馬裝束禁

色亦准此

今の本五位を五品とせりとあやまり之

凡大臣以上覆鞆者用淺紫冬議已上深緋諸王五位以

上綠色諸臣黃色六位已下不得用

凡侍医近衛府生以上并換非違使等者並除節會見之

外不必着朝服申諸司政之

三月朝服と表袴まじりて之朝服とせ

とく布袴をまじりて

凡_下聽_上左右近衛兼推樂仗才長上_上有令帶劔

把笏_上

凡蕃客朝拜之日假内舍人得着_上金銀飾仗_上

凡諸衛府五位以上通着朝服_上其着_上胡錄_上并

立仗之日着_上位襖_上但冬議_上已上_上不有此例_上

冬議_上已上_上胡錄_上を履_上ときも_上緇腋_上を_上き_上位

襖_上を着_上位_上仗_上を立_上る日_上と_上傳_上せ_上位_上に_上官_上有_上故_上なり

依_上て_上茶_上朝服_上と_上い_上へ_上と_上緇腋_上の_上事_上也

凡内外諸司不論把笏非把笏_上者公事_上公儀_上之

所_上悉_上着_上鞞_上自_上余_上時_上着_上履_上
把笏者雖非公儀_上 兩足之日_上靴_上着_上靴_上 又_上庶

人等通着履

凡六位七位朝服同着深緑八位初位共服

深緑

此条に朝服と有朝服遊服たるをいふ

凡麻坐者親王及中納言以上侍子五位以上漆塗

床子自余素木床子

凡諸衛府生以上左右馬寮進此除樹仗日之外皆着靴

但着布帶時須用麻鞋除着靴之外通着麻鞋

今の本に七除着靴之外通着麻鞋といへるを凡の

字をわらむらせし一筆とせり然れども是は衛馬

寮の府生以上の事、たれむ、前生、つらぬ、心、事、明ら

り、自、余の官と靴を除くときを履を用らいむ之

凡三禮内外諸司人等着薄朝服

